

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
プロジェクト研究（自由プロジェクト研究）
2011年度研究【経過】報告書

研究代表者	所属・職名		氏名			
	異文化コミュニケーション学部・教授		細井尚子 印			
研究課題	ユーラシアにおける汎文化圏的な世界認知の研究－仮頭・仮面に着目して－					
研究組織	所属大学名等・職名		氏名			
	立教大学異文化コミュニケーション学部・教授		石川文也			
	沖縄県立芸術大学芸術文化学研究科・教授		板谷徹			
	早稲田大学演劇博物館館長		竹本幹夫			
	東京外国語大学総合国際学研究院・教授		栗屋利江			
	盛岡大学文学部・教授		橋本裕之			
	国立民族学博物館人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員		宮本万里			
研究期間	2011	年度	～ 2012	年度		
研究経費	2011	年度	2012	年度	総計	
		3,000	千円	3,000	千円	6,000

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

日本の伎楽面のように頭部を覆う仮頭は、仮面に焦点をあてた仮面研究の中に埋没してきたが、**アジアの仮頭研究**により、仮頭は仮面の仮装性に対して存在そのものが変わる「**挿げ替える頭**」であり、その**出現の時空は宗教性を脱却できない**という属性をもつことが分かった。ヨーロッパにも仮頭によって視覚化される存在はあり、アジアの仮頭同様、行列・パレードによって祭などの場に出現する。ユーラシアの仮頭は異なる宗教を纏いつつ人々の日常生活圏の時空の外から来る異形の存在であり、人間の死生観・世界観に基づく世界認知のあり方の共通性を暗示する。**仮頭と空間移動**に着目し、ユーラシアで共有されていたと思われる**汎文化圏的世界認知の実像**について解明する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[仮頭] [ユーラシア] [空間移動]

研究【経過】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

初年度である 2011 年度は、テーマを「2 界観念と仮頭・仮面について」と設定し、以下の研究活動を行った。

< 研究会 >

1 回目 6 月 28 日 (火) 於立教大学

1) 研究体制の整備 (研究計画・方法の共有、個人分担テーマの確定など)

個人分担対象地域:

細井 (中国)・日本 (芸能面: 竹本、民俗的文脈: 橋本)・琉球 (板谷)・インド (栗屋)・ブータン (宮本)

2) 仮頭の属性について (本プロジェクトの準備段階となった科研の成果共有)

2 回目 7 月 9 日 (土) 於立教大学

1) アジアの 2 界観念と仮頭・仮面について: 「2 界」が表すもの

2) 前科研メンバー分担の発展的検討・報告

3) 2012 年度への展開構想

3 回目 9 月 25 日 (日) 於立教大学

1) 研究報告

宮本久義先生 (東洋大学) 「ヒンドゥー教のコスモロジー」

細井尚子 「中国における「あの世」の観念」

* 質疑応答: 「各宗教における「あの世」の語られ方」(テーマ)

2) スイス下調査報告 (石川)

・ クロイセの概況

・ 現地状況

・ 調査準備進捗状況

3) 年末の本調査計画

・ 調査日程

・ 調査計画

・ 分担決定

4 回目 2012 年 2 月 12 日 於国立民族学博物館

1) スイス・クロイセ本調査報告

・ 事前調査、本調査報告 (石川)

・ 参加メンバー個々の分担テーマに関連した報告

・ 進捗状況の総括

* 質疑応答

2) 研究報告

・ 橋本裕之 「獅子頭空洞説、あるいは器としての獅子頭」

・ 竹本幹夫 「「芸能面の源流—舞楽面・追儺面」

* 質疑応答

3) その他

・ 2011 年度研究費使用状況・使途報告 (細井)

研究【経過】の概要 つづき

4) 2012 年度活動計画

- ・ 2011 年度総括
- ・ 2012 年度研究計画の確認
具体的な活動内容の確認

5) 国立民族学博物館所蔵資料見学

< 実地調査 >

1) 下調査 (石川)

期 間 : 9 月 6 日 ~ 14 日

調査地 : アペンツェル、ウルネシュ、ヘリサウなど

- ・ クロイセ関連資料収集
- ・ クロイセを担う人々とのコンタクト、インタビュー調査
- ・ クロイセ実施地域の状況
- ・ 本調査用宿泊・交通機関などの情報収集

2) 本調査 (石川・細井・粟屋・橋本・宮本)

期 間 : 12 月 28 日 ~ 2012 年 1 月 4 日 (石川 1 月 2 日)

調査地 : アペンツェル、ウルネシュなど

- ・ アペンツェル民芸博物館、アペンツェル民俗博物館、アペンツェル博物館所蔵資料見学
- ・ クロイセの祭調査 (映像記録作成)
- ・ 関連資料の検討

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

栗屋利江 「1930年代インドにおける「国民国家」の模索—国民・宗教・女性」、和田春樹他編『岩波講座 東アジア近現代通史 第5巻 新秩序の模索 1930年代』、岩波書店、2011年5月27日、310-330頁。

栗屋利江 「南インドのカーストとジェンダー—ケーララにおける母系制の変容を中心に」、鈴木正宗編『南アジアの文化と社会を読み解く』、慶應義塾大学東アジア研究所、2011年11月30日、219-251頁。

板谷徹 「御冠船踊りを観る冊封使」「ムーサ」13 2012年3月

竹本幹夫 「観世寿夫とは何だったのか」『演劇映像学 2011 報告集』2 2012年3月 PP1-42

竹本幹夫 「結崎座と観世座」『演劇映像学 2011』、早稲田大学演劇博物館 2012年3月 PP79-88

橋本裕之 「町づくりの祭—伝統と新しい試み—」『北陸の民俗学』第23集、加能民俗の会・富山民俗の会・福井民俗の会、2011年8月1-12頁

橋本裕之 「信仰物理学再訪」『東北文学の世界』第20号、盛岡大学文学部日本文学会、2012年3月、1-25頁

宮本万里 「「仏教王国ブータン」のゆくえ—民主化の中の選挙と仏教僧」、鈴木正崇(編)、『南アジアの文化と社会を読み解く』、pp. 397-434、慶應義塾大学東アジア研究所、2011年

宮本万里 「現代ブータンの環境主義」『科学』、第81巻6号、pp.571-576、岩波書店、2011年

④ その他

石川文也 「Projet : « Masques festifs eurasiatiques » (version du 25 septembre 2011)」(事前調査フィールド・ノート)、16頁(未刊行)。

石川文也 「Projet : « Masques festifs eurasiatiques » (version du 10 février 2012)」(本調査フィールド・ノート)、10頁(未刊行)。

栗屋利江 「インド社会におけるダリト(不可触民)をめぐる」第11回日韓歴史家会議ソウル 世宗ホテル 2011年10月28日～30日

橋本裕之 三沢市歴史民俗資料館企画展『地震海鳴りほら津浪 2011』の企画構成、2011年9月～2012年3月

竹本幹夫 「『申楽談儀』面の事をめぐって—能面の源流—」立教大学 SNF 研究会 大阪国立歴史民族博物館 2011年2月11日